

お知らせ

記者発表資料
配布日時

平成28年 11月15日
10:00

■同時発表先：山口県政記者会、山口県政記者クラブ、山口県政滝町記者クラブ

**平成28年度 第2回 徳山下松港・宇部港における
石炭サプライチェーンの継続に関する検討会の開催**

徳山下松港・宇部港における国際バルク戦略港湾施策の推進にあたり、今後起こりうる大規模災害や事故・テロといったあらゆる事象においても、両港を経由する石炭及び石炭を燃料として製造されるエネルギー・素材・製品の物流（石炭サプライチェーン）を継続させ、さらには、地域連携等を通じて日頃からの事業競争力強化方策を検討することを目的とした有識者検討会を開催します。

今年度第2回目となる本検討会では、第1回の検討会及びワークショップで得られた意見を踏まえて、より具体的な連携の仕組みを提案し、宇部港・徳山下松港における災害を想定した机上演習（ロールプレイング方式）を実施します。

- 日 時：平成28年11月18日（金）13:00～17:30
- 会 場：ザ・グラマシー 2Fブルーオーシャン（別紙-1参照）
- 主な議題：（1）輸送コストモデルについて
（2）水平連携具体例の提案
（3）水平連携手法確認のための机上演習
（4）意見交換

※取材について

取材申込は、別紙-2にて11月17日（木）12:00迄にFAX送信ください。

会場には報道関係者席を用意しておりますので、当日、受付にお申し付けください。

<問い合わせ先>

国土交通省 中国地方整備局 宇部港湾・空港整備事務所 徳山下松港出張所
0834-31-0409（代表）

【担当】

企画調整課長	かわ	しま	よし	てる	
	川	島	剛	央	（内線16）
企画調整係長	さだ	しま	かず	お	
	貞	島	一	雄	（内線26）

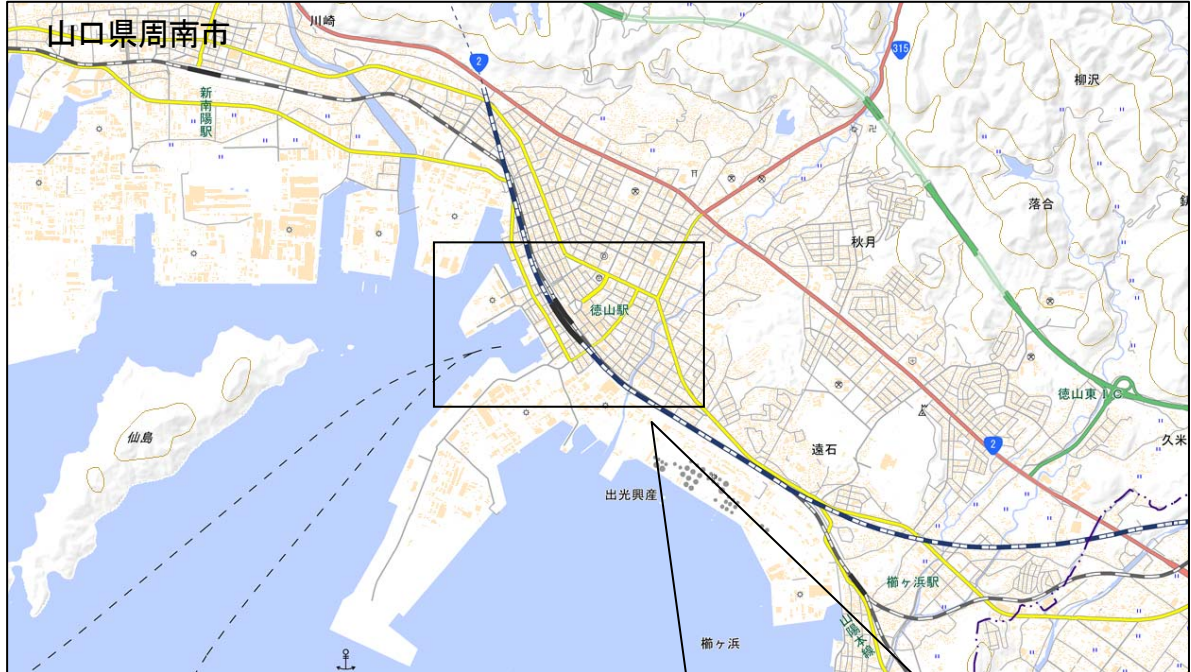
事務所HP：<http://www.pa.cgr.mlit.go.jp/ube/>

会場名 案内図

会 場：ザ・グラマシー 2F「ブルーオーシャン」

住 所：山口県周南市桜馬場通 3-16

電 話：0834-32-5000



拡大図



- ・【徳山駅】より徒歩約15分
- ・山陽本線【徳山駅】よりタクシーで約3分
- ・山陽自動車道【徳山東IC】より車で約15分

出典：国土地理院

取材申込書

平成28年度 第2回 徳山下松港・宇部港における
石炭サプライチェーンの継続に関する検討会の開催

平成 年 月 日

国土交通省 中国地方整備局

宇部港湾・空港整備事務所

企画調整課 川島 宛

TEL 0834-31-0409

FAX 0834-27-1458

機関名	人数	代表者の連絡先
	名	氏名 TEL

(注) 手書き記入で結構です。

参考資料

徳山下松港・宇部港における石炭サプライチェーンの 継続に関する検討の概要

検討の方針

徳山下松港及び宇部港は、全国を代表する石炭輸入港であるとともに、貯炭能力や国内への2次輸送等に優れたコールセンター（石炭中継基地）機能を有しています。今後も大型船の入港に必要な港湾施設の整備促進や石炭輸送の共同配船を行うなどして、我が国の産業活動に必要不可欠な石炭を、安定的かつ安価に供給する広域拠点港としての役割を担うことが期待されています。

こうした広域拠点港としての整備が進む一方で、両港の港湾機能が麻痺するなどして石炭の供給が止まった場合、背後圏経済への影響は計り知れないものとなります。このため、本検討においては、昨年度提案した、石炭サプライチェーンの継続に向けた7つの連携方策を踏まえて、徳山下松港・宇部港を経由した石炭を利用する2次輸送先企業の石炭利用状況及び内航船の輸送形態、利用炭種（ボイラー）毎の物流・商流を把握し、より具体的な企業間の水平連携手法を提示することとします。

なお、2回目となる本検討会では、1回目の検討会で提案した企業間の水平連携手法について、より具体的な連携の仕組みを提案し、宇部港・徳山下松港における災害を想定した机上演習（ロールプレイング方式）を実施します。

机上演習の概要

- ・参加者をプレイヤー（石炭取扱企業7社）とコントローラー（行政関係・港運業者等）に分けて、港湾施設が使えないという条件下において、連携施策のない現状と連携体制が構築されている場合を想定し、どのような対応の違いがあるかをロールプレイング方式で実施する。
- ・プレイヤーは、与えられた事象に対して、応援・受援それぞれの立場で、石炭サプライチェーンを途絶させないためにどのような対応をすればよいか、コントローラーから得られる情報を踏まえて、コールセンターの共同利用・共同配送等の連携を行うことで、宇部港・徳山下松港における石炭サプライチェーンを継続する。
- ・コントローラーは、実際の災害を想定して、プレイヤーからの問い合わせに対して新たな情報を付与することで、如何にしてサプライチェーンを継続させるかをプレイヤーに検討してもらう。
- ・災害が起きた事を想定した演習を行うことで、宇部港・徳山下松港における石炭サプライチェーンの継続について検討してもらうと共に、その必要性を認識してもらい、連携体制の仕組みを確認する。



机上演習の様子(プレイヤー)



机上演習の様子(コントローラー)

次回はシンポジウムを開催

- ・平成29年2月3日（金）東京で開催予定